

いのちの泉

カーメルバプテスト教会
日本人ミニストリー月報
2004年2月号

2004年が始まって、早2月も半ばになってしまいました。皆様にはお変わりなくお元気でいらっしゃいますか。今年の元日の朝には、我が家のキッチンの窓の所にある大きなプラムの木にカーディナルが7羽もやってきて、まるで春が来たような喜びを与えてくれました。その夜の我が家で行ったパーティーにはフィリッピンの家族が2組(10人)、アメリカ人、メキシコ人、日本人と集まり、カラオケを歌い(日本語、英語)、踊り、心底からの笑いがあり、「ああ、今年は明るい年になってくれるかな?」と思っていましたら、パンサーズが思いがけずスーパーボールに出られることになり、シャーロットの人々に大きな希望を与えてくれました。スーパーボールではニューイングランドに惜敗しましたが、スーパーボール史上でも最高のゲームになったようです。仕事が見つからなかったり、病や心の苦しみの中に日を過ごしている方もいるでしょうが、パンサーズのゲームは、そういう人達にも一時であれ辛さを忘れる光を与えてくれたのではないのでしょうか。

日本人ミニストリーの月報に始まって、「命の泉」と長い間書かせて頂きましたが、この号をもって次の方にバトンタッチさせて頂くことになりました。月報に携わって4年余りになるのでしょうか。その間、何を書こうかと思いつくことも多々ありましたが、多くの姉妹方に励まされ今日まで続けることができましたこと、心から感謝申し上げます。私にとりまして、とても良い勉強になりました。

信仰の面では、洗礼を受けた5年前より、聖書を開く回数は少なくなっていますが、何か「事」が起こった時に心を揺さぶられることも、また少なくなりました。これには何か意味がある、主の御心はどこに?と思いつくことによって希望へと継げることができるようになったのです。自分の人生を振り返りますと、余りにも忙しく、せわしく過ごした日々が思われ、心の荒みを覚えます。静かに内省の時を持つてたと思っています。

本当に長い間有難うございました。

中藤百々代



私達は、このような希望によって救われているのです。見えるものに対する希望は希望ではありません。現に見ているものを誰がなお望むでしょうか。(ローマ8:24)



盛んな一年になるように 出エジプト記1:1~2:2 ジョエル・ラブストランド牧師

皆さん明けましておめでとうございます。今年はどういう一年になるのでしょうか。

日本では新年になると神社やお寺にお参りに行ったり、おみくじで占ったり、初夢を解釈してみたりして、自分ではコントロールできない状況を何とか良くしようと必死になります。しかし誰にでも今年、思いがけないことが起こるに違いありません。

クリスチャンは占いや仏に頼りませんが、私達の一年は他の人と違うのでしょうか。今月の聖書箇所を見ると、神様は、神様の民がどんな状況にあっても彼らを榮えさせることが出来ることが分かります。将来がハッキリしない時、クリスチャンは神様から安心を得ることができます。苦しめられる時、クリスチャンは真実であられる創造主に自分の魂をお任せして必要な力を得ます。

ある人達にとって今年は本当に不安です。経済はまだ不安定ですし、イラクの状況も落ち着きません。北朝鮮の状況も全然好転してはいません。政府が変わる時不安になりますね。数年前香港が中国に返還されましたが、その前には心配している人が沢山いました。この出エジプト記の話の当時、イスラエル人にエジプトの政府の変化が大きな影響を及ぼす可能性がありました(8節)。

ご存知かもしれませんが、この話の背景を簡単に復習しましょう。神様がアブラハムという人に、彼の子孫をご自分の民とするという約束をして下さいました。アブラハムの孫のヤコブの息子ヨセフは、兄達に奴隷としてエジプトに売り飛ばされましたが、神様は彼と共におられ、パロの前で恵みと知恵をお与えになったので、パロはヨセフをエジプト全体を治める大臣に任じました。大飢饉があった時ヨセフの兄達はエジプト

には食糧があると聞いてやってきました。ヨセフのためにパロはヨセフの家族に肥沃な土地を与え、家族を親切に扱いました。実はイスラエル人がエジプトに行ったのは神様のご計画でした。ずっと前神様がアブラハムにその預言をお与えになりました（創世記15章13節）。エジプトにいた400年の間にイスラエルの人数が非常に多くなりました。それでカナンに行った時そこにいた国々と戦ったり、カナンの地を耕作することができました。一般のイスラエル人がこの預言のことを知っていたかどうか分かりません。聖書はまだ出来ていませんでしたが、ある話は親子代々伝わっていたでしょう。いずれにしても新しい王が王位につく度にイスラエル人は不安を感じたでしょう。今も同じです。政府の変化だけでなく色々な変化が将来に関する不安を感じさせます。会社のリストラ、転勤、転校、色々あります。

私はなぜこの時代、この国に生れたのでしょうか。なぜこの状況に置かれたのでしょうか。こういうことを考えたことがありますか。実は皆さんが今ここにいることに理由があります。神様のご計画の中で意味があります。あなたが神様の子供だったら神様のご計画は自分にとって素晴らしいものです。イスラエル人がエジプトにいたことに理由がありました。多くの不思議な業を通してイスラエル人をエジプトからカナンまで連れて行かれました。このエジプトからの解放が旧約時代のイスラエルの歴史の中の最大の出来事だと言っても過言ではないと思います。

では神様のご計画は何でしょう。

詳しいことは神様にしか分かりませんが、究極の目的は神様御自身に栄光を帰するためです。人間が神様の恵みを知ることによって神様に従う、それが神様に栄光を帰することになります（使徒の働き17章26節～31節）。



将来が不明である時や自分の状況がコントロールできない時、クリスチャンはどういう態度を持つべきでしょうか。まず自分が神様の民の一員であることを意識します。それによって神様のご計画は自分にとっても素晴らしいものだということを覚えることができます。そして恐れなくて神様のご計画に頼りながら、神様のご栄光が表されるのを期待することはクリスチャンにとってふさわしい態度です。ヨセフはこういう態度を持っていたので自分の兄弟に奴隷として売り飛ばされ

たのに彼らに対して何も恨みを抱きませんでした（創世記50章19～20節）。

そして、将来が不明である時だけでなく、この個所を良く見ると、苦しめられる時も私達が栄えることが出来るということが分かります。「しかし苦しめれば苦しめるほど、この民はますますふえ広がったので、人々はイスラエル人を恐れた」（12節）。職場でも家庭でも、学校でも苦しめられたり、いじめられたりすることが少なくないと思います。理由は様々ですが、その一つは、この個所に書いてあります。それはいじめめる人が相手を恐れているからということです（9～10節）。この恐れを発したのはイスラエル人が強いということだけでなく、イスラエル人がエジプト人と違う民だということでした。私達も異国、つまり神様の御国に属しているので、そのために苦しめられることがあります。イスラエル人は苦しめられてはいましたが、その苦しみの中で神様の力を得ました。パロがイスラエル人を苦しめることは神様に敵対することになりました。ですから12節に書いてありますように、神様はイスラエル人を守って下さいました。

私達が苦しめられるのに色々な理由があります。会社では、上司の権力を感じさせるために部下を苦しめることがあります。学校のいじめも似ています。自分の力を感じたり、その力を他の子に見せるためにいじめの子がいますね。多くの場合は他の人と違う人が攻撃の対象になってしまいます。イスラエル人はエジプト人と違うので狙われ易かったのです。クリスチャンは世間の人と違うので、そのためにいじめられることがあります。クリスチャンの生き方や価値観が自分のと違う時、周りの人は違和感を感じて責められているような気がします（第一ペテロ4章3～4節）。こういう苦しみはクリスチャンにとって驚くべきことではありません（第一ペテロ5章12～19節）。

では苦しめられる時どうしたらいいのでしょうか。まず、その苦しみが自分の愚かさのためでないことを確かめましょう。使徒ペテロは、このアドバイスをしました。「あなたがたのうちのだれも、人殺し、盗人、悪を行なう人、みだりに他人に干渉する者として苦しみを受けるようなことがあってはなりません」（第一ペテロ4章15節）。

もしクリスチャンであることのためなら、その苦しみを喜ぶことができます。ペテロは続けて言います。

「しかし、キリスト者として苦しみを受けるのなら、恥じることはありません。」神様はご自分の民を決し

て見捨てません。イスラエル人がエジプトで迫害されている時、神様はイスラエル人を憐れんで下さいました。（出エジプト記3章7～10節）。私達の生活が楽しくても苦しくても神様のご計画の中で意味があります。昔のイスラエルのように神様から必要な力を得、苦しみの中でさえ栄えることができます。

この個所から、神様の恵みを得て栄えることができる、もう一つの場合があることが分かります。将来が不明である時だけでなく、苦しめられる時だけでなく、罪を犯すように圧迫される時にも栄えることができます。15節から16節、そして22節に二つの例が書いてあります。クリスチャンも罪を犯すようにプレッシャーをかけられることがよくありますね。なぜ人がクリスチャンに罪を犯させようとするかといいますと、もしクリスチャンが罪を犯せば、普段同じ罪を犯している人がそれを指して、「ほら私達と同じだ」と言えるので違和感がなくなるというのが一つの理由です。しかし他の理由もあります。ある時は罪人達を富ませるためです。ニュースの中で不正な利得のための逮捕が多かった年がありました。私は日本でテレビを見てい

る時、知らない単語が沢山出てきて良く分からない場合が多かったのですが、この不正利得という言葉を知ったのは何回も聞いたからだと思います。会社で自分の利得のためだけでなく同僚や会社のために罪を犯すように圧迫されることがあります。家庭の中で家族のために罪を犯すようにプレッシャーをかけられることがあります。学校では友達を助けるという理由でプレッシャーをかけるケースがあります。こういうプレッシャーはあらゆる方向から迫ってくるのです。会社、家族、友達、時には政府からきます。この個所の場合はエジプトの王パロがイスラエル人の助産婦に男の赤ん坊を殺すように命じましたが、この人達はパロより神様に従う決心をしました。この助産婦達は神様を畏れたため、彼女達は神様に祝福されたし、イスラエルは強くなりました。モーセのお母さんがパロの命令を恐れなかったため、後にイスラエルの指導者となるモーセの命が救われました。私達はどのようにしてプレッシャーに負けないで、神様を第一にしましょうか。誰を恐れているのでしょうか。プレッシャーに負けないで、神様を第一にしましょう。

心のマッサージ

ユダヤ・ジョーク集 株式会社ミルトスホームページより

なぜアダムは一人なのか？

なぜ神はアダムを一人だけ造り、一度に大勢造られなかったのだろうか？

それは、人間の一人一人が、そもそも全宇宙にも等しいことを示すためである。また、一人の人を殺すのは全世界を破壊するのと同じくらい罪深いことであるのを人類に教えようとされたためである。だから、ただ一人の人の命を救うことは、すべての人間の命を救うのと同じように尊いのだ。

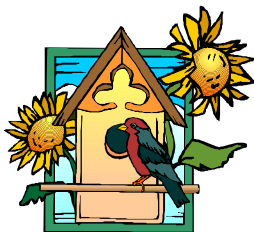
さらにまた、一度に多くの人間が造られれば、異教のやからは、神は一人ではないことの決定的な証拠だと言うであろうから、そうさせてはならないからである。

さて最後に、神はこのことによって、ご自分の力と栄光とを確立された。コインを製造する者はただ一つの鋳型を使って作業するので、出てくるコインはみな同じである。しかし、主の御名をほめたたえよ、王の中の王はすべての人類をアダムのアダム型にて造りながら、だれ一人として他人と全く同じ者はない。このゆえに人は皆それぞれ自分自身を敬い、尊厳をもってこう言うのだ——「神は私のためにこの世を造って下さいました。それゆえに主よ、虚しき情熱のゆえに永遠の命を失なうことのないようにして下さい！」

X印の数

仕立て屋シュムルがロシアの小さな町からアメリカへやってきた。彼は読み書きができなかったが、ニューヨークに洋品店を開き、成功し始めた。そのうち彼は小切手口座を開きに銀行へ行った。書き方を知らないで、銀行の台帳に名前代わりにX印を二つ書いた。

時が経ち、彼はますます成功した。彼は洋服の店を売却し、新しく織物製造業を始めた。そこで新しく口座を開くために銀行へ行



た。今回彼は銀行の台帳にX印三つでサインした。

「なぜXが三つなのですか？」 銀行頭取が尋ねた。「あなたはいつも二つでサインなさいました」

「ああ、君も知ってると思うけど、女は装飾好きだろう？」 彼はすまそうに言った。

「妻が私にミドルネームをつけさせたがるんだ」

投稿

結婚して、まず一番に大変だったのは、毎日の食事の用意をすることでした。その頃私はアメリカに来たばかりで色々なことに慣れていない時でしたので、食事の仕度も大変に思われました。朝食の間に昼や夜の仕度について考えていたりしましたので、まるで1日が献立や料理、後片付けで終わってしまうように思ったこともありました。

献立を考える時、皆さんはどのように決められるでしょうか。家族の好み、買い物の必要、予算等、そして一番大切なのは栄養のバランスではないでしょうか。私達が元気に過ごせるのは毎日食事の仕度をして下さる方が居るからかもしれませんね。皆さん感謝しましょう。

身体の栄養は食事から摂りますが、心の栄養はどこから摂るのでしょうか。私達クリスチャンは聖書から栄養補給します。「聖書は全て、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。」(II テモテ3:16)と書かれています。そして聖書の始めの創世記から、最後の黙示録まで、一貫して書かれているのは、神様の私達に対する救いについてです。そして私達が日々歩むための判断力、導きや励ましも、聖書から頂きます。私の義父は今78才ですが、これからメイン州の教会に牧師として赴任します。彼らは子供時代に大恐慌、青年時代は第2次大戦と大変な時代を経てきました。宣教師として海外に滞在中も様々な困難がありました。そのような彼らの生活の中に、いつも聖書がありました。今は毎朝5時前には起床し、聖書を読み、祈ることと歩くことを欠かさず、健在で朗らかに過ごしています。

私は怠け者なので朝5時前には起きられませんし、余り疲れていると聖書を読んでお祈りが、おい寝りになってしまいます。このような私でも神様は憐れみをかけて下さいます。ですから毎日できるだけ聖書からの栄養補給をさせて頂きたいと思っています。

さて、ところで今晚の夕食は何にしましょうか。



人口の増加

進化説を信奉する人々が説明するところによると、約500万年前に、類人猿から進化した北京原人やジャワ原人などと呼ばれている原人が地球上に現れたということです。ある人々はアフリカ中部で最初の人類が誕生したとも言っています。北京原人は69万年前の直立人であると言われ、ジャワ原人は100万前から60万年前だと言われています。そして4万年前に新人という種類に進化し、それが私達の直接の祖先だと言うのです。(これらの年代測定方法の問題点については別に述べたいと考えています)

それに対して聖書は、約6200年前に(万が抜けているわけではありません)神が、地球と、アダムとイブをはじめとする全ての生き物を造られたと私達に教えています。

私達は子供の頃から進化説に基づいた説明を聞いてきました。三つ子の魂百までと言うとおり、子供の頃に教えられたこと、常識だと思っていたことを、否定す

るのは非常に難しいのですが、どちらが正しいのかということを考えてみる必要があるのではないのでしょうか。データを下に、どちらがより真実に近いかを考えてみましょう。

仮に、地球上の各地で類人猿から原人が進化したとすれば、同様に各地で原人から新人への進化が起きたことでしょうか。それが4万年前だとすると、地球人口は現在どれくらいあるべきでしょうか。

速水融・宮本又郎両氏の研究によると、江戸時代の始め(1600年)の日本の人口は約1200万人であり、それから250年後、明治維新の少し前には3228万人だったということです。両氏は次のように述べています。「当時の最先進国イギリスの1681~1871年の人口年平均増加率は、0.775%であり、江戸時代の日本は産業革命前のイギリスとほぼ同じペースで人口増加を続けていたようです。」(「概説17-18世紀」)そして、大東亜戦争直前の日本の人口は1億弱でしたが、現在は1億2600万人です。

これを元に簡単なグラフを描いてごらんになると良く分かりますが、明治以降日本の人口は急激に増加しています。江戸時代は安定した増加の時代であり、それ以前は戦乱の時代で、食料を得るための工夫や病気に対する対処法も進んでいませんでした。飢饉や疫病の時にはむしろマイナスの増加であったことでしょう。しかし、人口増加率はきわめて低かったとは言え、長期的に見ればやはり人口は増加していたのです。それを考慮して先ほどのグラフを過去にさかのぼらせると日本の歴史の始まりを何千年も前にさかのぼらせるわけにはいかないことが分かります。

さて、世界全体ではどうでしょうか。1970年の世界人口は、約3億1221万人でしたが、現在は6億35718万人です。33年で2倍以上になっています。デイビッド・レビンという人の計算では33年後、つまり2036年の世界人口は10億5159万人になるということです。

ある人の研究によると、現在地球上には、これまでに地球に住んだ人達よりも多くの方が住んでいるといえます。つまりアダム以降の人類の祖先の人口の合計は6億35700万人より少ないというのです。日本の人口推移のグラフと同じようなグラフが目には浮かびます。人類の歴史もやはり何万年も前までさかのぼらせることは出来ません。

清教徒の一行102人がメイフラワー号に乗ってアメリカの地を踏んだのは1620年です。厳しい冬を過ごして翌年の春まで生き残ったのは、その約半数でした。彼らは、その信仰に基づき最初はグループの中で結婚し、子供をもうけていったことでしょう。それから約380年後の現在、彼らの直接の子孫が約240

万人いるそうです。創世記9章は、ノアとその3人の息子達から新しい人類の歴史が始まりったこと、そして10章では、彼らから色々な民族が広がって行ったことが書かれています。ノアは洪水の後350年生き、950歳で死にました。メイフラワーの子孫の増加を参考にすると、その頃地球上には少なくとも100万人の人達が住んでいたに違いありません。それは今から約4200年前のことです。そのノアの子孫が現在の地球人63億人に増えていったのです。

皆さんは鼠算というのをご存知でしょう。一組の雌雄のネズミから、いかにネズミが急激に増えるかという計算です。また、秀吉から何でも望みの褒美を取らせると言われた曾呂利新左衛門が、碁盤の目に、初めは1粒、二つ目には2粒、三つ目には4粒、四つ目には8粒と一目ごとに倍ずつ米を頂きたいと言ったところ秀吉は、何だそんなことかと笑ったものの、いざ計算してみると最後の目では何十万石にもなることが分かり勘弁してくれと言ったとされています。

もし、地球上に人類が誕生してから4万年もたっているとすれば、地球の人口は3万年以上前に爆発してしまっているでしょう。私にはとてもそんなに長い時間がたっているとは考えられません。一見信じがたいような聖書の記事、つまり人類の誕生から現在までは約6200年だという説明の方が、納得できるのです。皆さんはいかがでしょう。

片山進悟



お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレスシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉まで。電話番号が変わり704-243-4670になりました。

日曜日午前9時半からA231号室で高見憲次兄による成人のための日曜学校、11時からR109号室でラブストランド牧師による礼拝、また月曜日午後7時からA238号室でラブストランド牧師による聖書の学が行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学び、また日本人同士のフェローシップの時間と致しましょう。

「いのちの泉」は、シャーロット在住の日本人のコミュニケーションのための月刊紙を目指しています。皆さんも、どうぞ奮ってご参加下さい。お互いの向上に役立つための趣旨に賛同して下さる内容であれば何でも結構です。

Carmel Baptist ChurchのJapanese Ministry 宛、または charlottejpn@hotmail.com にお願ひします。

カーメル・バプテスト教会
1145 Pineville-Matthews Rd.
Matthews, NC 28105
<http://ifc26.tripod.com>

モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、
統一教会とは関係のない、正統的なキリスト
教会です。安心して気軽においで下さい。

日本人ミニストリー連絡先：
李牧師（704-847-8575）
ラブストランド牧師（704-849-8851）
片山（704-843-6298）